

## 第42回夏季大学「新しい気象学」開講のお知らせ ～気象のシミュレーションIII～

教育と普及委員会

主催：日本気象学会

後援：気象庁，日本地学教育学会，(財)気象業務支援センター，日本気象予報士会

日本気象学会は，最新の気象学の普及を目指して，毎年夏季大学を開催しています。第40回からは，気象シミュレーションの理解を目的として，高校で物理を履修した大学初年次程度の受講生を想定した講義を行っています。

今年のテーマは「気象のシミュレーションIII」です。地球は大気，海洋，陸地といった構成要素からなるシステムです。地球規模の大気の運動を予測する際，海洋や陸地の状態の変化が大気に及ぼす影響だけでなく，これらの間の相互作用も測らなければならず，この複雑なシミュレーションはコンピュータ演算能力が著しく向上した近年になってようやく可能になりました。今回は，気象や海洋の現象のモデル化や相互作用のシミュレーション結果を通じて，地球環境のシミュレーションの意義や役割を明らかにします。また，アジア初の長期再解析（世界中の過去の観測データと最新の数値解析予報技術を使って得られる，過去長期間にわたる高品質の解析データセット）であるJRA-25を用いた気候解析の基礎を実習形式で学んでいただきます。

### ○日程，講義題目，講師

平成20年8月2日（土）

10：00～11：30 「気候システムのモデル化から地球システムのモデル化へ～地球温暖化予測モデルの現状と今後の展望～」

行本 誠史（気象研究所気候研究部）

13：00～14：30 「季節予報モデルについて」

新保 明彦（気象庁気候情報課）

15：00～16：30 「大気海洋結合系のシミュレーション」

小守 信正（(独)海洋研究開発機構  
地球シミュレータセンター）

平成20年8月3日（日）

10：00～11：30 「気候のための再解析 JRA-25」

大野木 和敏（気象庁数値予報課）

13：00～15：00 <実習> 「JRA-25を使おう」

海老田 綾貴（気象庁気候情報課）

### ○講義会場

気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

会場の地図は，気象庁ウェブサイト（<http://www.kishou.go.jp/intro/map.html>）をご覧ください。

### ○募集対象と人数

高校の物理で履修する程度の知識をお持ちの方（講義では簡単な微分方程式を使用します）

定員50名程度

### ○受講料（消費税含む）

一般 5,000円，学会員・学生 4,500円

参加申込受付後，郵便口座をお知らせしますので，そちらに受講料の振込をお願いします。

### ○講義資料

受講者の方には，事前に講義レジюмеをオンライン配布します。また，開催後に，講義まとめ録を「教育と普及委員会」ウェブサイトに掲示する予定です。同サイトには，過去の資料が公開されていますので，ご覧ください。

### ○参加申込方法

インターネットの普及を受け，ウェブ・フォームによるオンライン受付を原則とさせていただきます。詳細は，「教育と普及委員会」ウェブサイト（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj/kyoikuhukyu/>）をご覧ください。インターネットへの接続環境をお持ちでない方は，下記事務局にお問い合わせください。

### ○参加申込締切日

平成20年7月14日（月）

### ○お問い合わせ先

気象庁内 日本気象学会事務局  
Tel. 03-3212-8341（内線2546）  
Fax. 03-3216-4401

## 2008年 第42回夏季大学「新しい気象学」 ～気象のシミュレーションIII～ 講義時間割

8月2日 (土) 10:00~11:30	気候システムのモデル化から地球システムのモデル化へ —地球温暖化予測モデルの現状と今後の展望— 行本 誠史 (気象研究所 気候研究部)	地球の気候をシミュレートする気候モデルは、地球温暖化予測において最も重要なツールとして世界中の研究機関で開発が続けられてきている。そのしくみと最新の予測結果を示し、性能向上と不確実性の低減に向けた地球システムモデルへの発展について解説する。
8月2日 (土) 13:00~14:30	季節予報モデルについて 新保 明彦 (気象庁気候情報課)	本講演では気象庁で運用を行っている季節予報 (1か月, 3か月, 暖・寒候期予報) を対象とした数値予報モデルの概要と, 短期, 中期予報を対象とした数値予報モデルとの違いを中心に, 数値予報結果の利用における留意点などを示す。
8月2日 (土) 15:00~16:30	大気海洋結合系のシミュレーション 小守 信正 (独立行政法人海洋研究開発機構地球シミュレータセンター)	本講義では, 気候システムにおける海洋圏・雪氷圏の役割と, それらを含む大気海洋結合系の数値シミュレーションについて概要を述べた後, 近年注目を集めている中緯度域での大気海洋相互作用について紹介する。
8月3日 (日) 10:00~11:30	気候のための再解析 JRA-25 大野木 和敏 (気象庁数値予報課)	長期再解析は, これまで蓄積されてきた観測データと最新の数値解析予報技術を使って, 過去数十年間の地球全体の大気の状態を精度よく再現する気候データを作成するものです。再解析データは, 過去の気候変動にともなう様々な現象の解析などに利用できます。気象庁と(財)電力中央研究所がアジアで初めて実施した再解析 JRA-25について, 解説します。
8月3日 (日) 13:00~15:00	<実習>JRA-25をしよう 海老田 綾貴 (気象庁気候情報課)	JRA-25データを用いて, 季節や年変動といった気候の他, 水循環や異常気象の監視のための図を実際に描く作業を行う。

気象庁案内図



気象庁への交通

- 東京メトロ 竹橋駅 (東西線)  
4番出口 徒歩約2分
- 東京メトロ 大手町駅 (千代田線など)  
C2番出口 徒歩約5分
- JR 東京駅 (山の手線など)  
丸の内北口 徒歩約20分